

## 04 魔法のステッキでアナル開発コース

「**！」**の前はお譲りしましたね。アコムがやんこも大好評で、彼女、プレイのビトオを……まあ、それせぬこしておこして今回ば~」

「もつと変態なプレイですね、では、**！」**のコースせじうじょい」

「人格は前回の調整と回りで後の開発を、彼女の魔法のステッキも**！」**のように改造しますので、今回は催眠で……ふふふ、お尻に凹つたよつて何よつです」

「せ、せあこ、**！」**想定あつがとひ、**！」**にまわ」

「せひ、もかろん変身済みで、言われたとおり魔法のステッキも持つてもたわよ」「べ、べえな……せどにやるのひ」

「ひつ……もかくへん展示どおりに準備はしあたし」

「**！」**おくなごになこたび」

「あんた、わたしが逆らえなこつて知りしゆだしお、興味よ」

「え、準備してたか、言わなセヤタメ……~」

「あんた、絶対樂してたわよね、変態、ホント変態なんだから……敵だつたら**！」**のステッキでボーボコニフリやるの」

「うひ、手が自然に、**！」**スカをまくつあひて、お尻突きだつのこやひこボーズ取つひやつひ「じぱじぱ見すわよ、**！」**の雑魚戦闘員、ナヒヤヒ渡ませぬかい」

「シローンのクロッチをかいつて……見ついた**！」**。おひ、お尻こつねむつて、つつかつぶる尻の中、洗浄しておもしたあ~ ですから、キレイな私のケツ穴を楽しんで頂けますわ~」

「**！」**れど、ここのよな」

「お尻の奥まで、すくすくして顔から火が出てる……**！」**タータ笑ひて、**！」**にまわないで!」

「**！」**んな変態行為、慣れるわけ無いじょ!! おしつを突き出つて、**！」**んな恥ずかしい格好させ

て」

「な、何、**！」**のよつてナルで感じたかくもひいてんだなって、そんな下品な期待なって、してなこんだか~」

「わかつてゐるわよ。もかくお尻の穴を責められるなんて、初めてだけど、全部、知つてゐるよ、あんた達の組織が私に残りわざして記憶を書き<sup>！」</sup>んだからよ」

「じゃ、行くわよ。せ、セインストステッキ、モードチェンジっ！ 魔法のアナルビーズ、うう、わたしのステッキ……」こんな変態行為に使うなんて……うつむか、一の変態めーき、期待なんてしないわよ!? 変態ー！」

「アーフー、シモーツに手が、ん、んんっ。ほんとこ、下ろしちやつてるう、う、恥ずかしい……」

「は、鼻息……ひうつひ　あ、あんんつ……そんなんつ……お、お尻の穴あ、舐めないでえ……」「あふ、んふう、くふううし、」

「おしゃりなめうれてるひ……わたしおしゃりなめれてつ、んあつ……ペろペろつて、変態つ……な  
んべ!」こんな変態な一ひとひ、わあつあ……」「

「くふ、せふう……お尻の穴、拡げられて、こう、こう、こう……♡ 奥まで舐めてるの  
わかるわッ♡ んむ、ぐむ、♡ えここッ♡」

「はあい、んあつ……あ、あつ、んあああつ?」

「…………はあはあ、や、やっと解放された…………お尻、『こんな』感じのなんて…………し、知らなかつた…………知りたくないなつたより、『こんな変態な』」とお…………」「

「わ、わたしのステッキ、ああ、お尻なめた舌でなめるなあ……ふあ、ていうになつちやつたわたしのステッキ。い、入れるの……ほんとに入れちゃうの?」

「フーッ、フーッ、あ、あつたしる……むへへ、んああッ、んあおおお……奥までユーズ、ビ、ビ  
んどん、潜つていつちやうひう……」

「しょんなあへ、じんなり……あね、あねへ、おほおほへ……せりやほぢやれたせいで、んう、んう、太いビーズも、ね、ねねへ、ねふうう、井にゅうきゅうへ、一氣に入つてうつしちゃ」

「んお、んおお、ステッキ抜き差ししないで、そのままでも、充分クルのにい、んお、んおおッ！」

「え、あ、き、氣持ちいいか、うへ。みんなの、どうして言わないと云はなければないのよ、お尻の穴

「Jのペコム・ポーションがそんな変態みたいないじ……」、いつわかないじやない、お、おお  
かいしなんでへ変態大出しじやないの」

「お母さん、心配してます。」

「んなぐ『迷惑な』とされてはあはあ、悦ぶわけなんじょ」「なんで、そんな」「ヤ一ヤ笑つてゐるよ。わたしの気持ちを見透かしたみたいな顔して、また

奥う、ステッキでグリグリして、んい、んいい♥ んいおおツ♥」  
「ち、違つから、わたしは変態じやないもん」

「アナルを責められて、よ、悦ぶような、そんなマジじゃ……せ、正義の魔法少女、あひいつ、だ  
かりッ、お、おおおッ！」

「せ、全部入っちゃつたあ……ハツ、ハアツ……おなかぱんぱんなの!」……んあつ、わたしのステッキなのに……ひつ、ヒツ、ヒツなど、こんなのがんお、とねお、んおほおツ、だめつ、魔法のす、ス、トリッキでお腹つぐむかわしちや、だめえ!」

「魔法少女の神聖なアイテムで……なにこれ!?」「ふうほお、こいつ……あつわい……やうのがう、ハ?」

「ふ、ふへひやつたあ……魔法少女なのに、お尻で感じて……変態、うるな変態みたい!」……は

「ああ、……でも、せんねえ」

「んひいっ!? ギュンヒッてえ、ベースが一個一個、んあ、んお!?」

「アハル、アハル……アハル……アハル」

「!?」  
「おでこにさわる力がないからだよ。」

「お尻の穴の感じやすい」とか、いっぱいゴリゴリされれえ♥」「あ、ああ、あああ、イグイグイグ、アナルイグう♥」

「ビーズ引き抜かれて、盛大に

「ほひ、ほひ、……い、い、ちやうたあ……お尻の穴で、何回もい、ちやうたあ……

「んあ、お尻、まだなにか入つてるような感じすの……」

トびつつかねわよ……ハーツ、ハーツ……ホンドガチガチに勃起しかやつて、匂いも、そ、そ

「本当に節操ないチンポね。わたしのステッキのビーズより太くて、『J』や『H』、『J』んなの『J』んなのはわたしのお房いじめるの興奮したの？」

「また四つん這い、」こんな驚いたいな格好で……お尻丸見えなのに……恥ずかしいのにわた

し、わたし……あん、あんんっ、後ろの穴にツ、先っぽ、擦りつけてきて」「んう、んうう、んがうつ……♡」

「入れるなら、サハヤとしなさいよ」

「おまえは、おまえのやうな人間には、おまえのやうなことをやるにふさわしくない。」

「う、あ……うの……」

「……」  
「これは、あなたのチンポ、欲しかつてゐるわけじやないの、焦らうされるのか、落ち着かないだけだからッ」

【おんせん】  
「おんせん」は、温泉を意味する言葉で、主に日本全国で使用されています。温泉地や温泉施設を指す際に用いられます。

おほおおツ ピースと全然 違うべからず

ふうといオチノホで、お尻の奥まで抜けられてネッ♡ サ「戦闘服」に、「んな」んだけだものみたい」にしおかでちくわせり、まれてゐるのに? 「氣持いいいのがとまないなじゅ!?」「んい、んい、いっ……」、催眠のせい、これは催眠とか洗脳のせいだから、あひいじゅ!?」「あぢゅあぢゅのおがんかん入れられで、よがつちやうのは仕方なじのむづーつ……」「はひ、はひはひい、あひい……あふはああ……お、おお、おほおツ、すばすばツ、お尻の中、混ぜながら乳首、抓らないで、んい、んい、いっ、変な声出せりやうジッ♡ なんねシッ！」

【両方の乳首】同時に弓張らないでんあんあひ<sup>ハ</sup><sup>ハ</sup>◀ひし<sup>ハ</sup><sup>ハ</sup>♥

「わたし、変態になつたやういふお兄もおつまみもいじめられて喜びが変態いやあ魔法

「悔しいのにつ、あひいん♥ 気持ちいいのが♥ んお♥ 頭の中塗りちゅぶして♥  
だめなのに♥!? お尻と乳首に、こつぱいイジメられてえツ、イグ、イグうツ♥」

「悔しくなつちゃう♥」「少女に戻れなくなつちゃう♥」「だめだめ♥」「だめだめ♥」

「い、いつてる♡ お尻の穴、エツチな穴になっちゃつたあ♡ おちんぽ専用穴♡ ひあ♡ あ♡ ん”あ♡!? “ん”んつ♡」

「出したり、入れたりい!? 早くなつて、んひいひ だ、出すの!? わたしのお尻の奥にザヽ戦闘員のくちゅかどりどろ精液出しちゃうの!?」

「はあ、はあ……んあハハ

「たっぷたっぷして……わたしのお、お尻の中に入つてたものなのに」、そ、そんなもの、じ、じいな  
いわよ?」

「え……な、ナマでうて、そんなお尻よ!? ダメ、ダメに決まってるじゃない……ひ、わたしが

「わたくしおかしくなつちやうか～」変態になつちやうから～」

「き、期待してるわけじゃないから」

「お尻の穴がヒクヒクしてるのは、あんたたちの卑劣な催眠のせいなんだからつ……極太ちゃん  
ぼをアナルの奥に突き立てられて、あいつあいつのせーし、こわばし出して、アナルの奥までソロ  
ドロにけがされたいなんて、魔法少女が、思っちゃいけないの」……想像しただけでぐるぐ  
しゃやつてしまふ

二両方の指で「アガルをくはあ」として見せるから】

「ほいあ」「ハフてお尻を括けた」「中井ひよく見えねのか興奮しないやついるよね、変態」  
変態なんだから、媚びてわけじやなこし、はあ、はあ、はいよといふ氣を使ってあげてんだナツ  
…………黙つて聞いてみつづけ……

「ハサウエイ、アーヴィング、シドニーオードナント」

「来たあ、どうぞのナマで、一、二、三、れえ、一、二、三のツ♥」

「熱くて、ふつりぱりのチノポツ、わたしのお尻の穴にゅ ずつずつてゅ」

お尻の穴のお肉 引きすり込んで だめ せんせん違う ゴムがないだけなのに

「ケダモノみたいな顔ツ、出る、出ひやう」

「おかひぐなる わたし おかひぐな」セイヤ 変態になセイヤ】

魔法少女なのに♡ お尻で感じで「めんなしゃいつ♡ ザ「戦闘員」におちんちんおねだり

〔第三章〕 二十一世紀の政治と社会

おほおツ  
〔  
心〕

「ザーメン、ナマでえツ、んあ、んああ♡」

「濃い精液い、お腹に直出しちゃう」ひとい♡

上手いなー!! めでたやうナデハシ、おお、おおおおおお

「せーじ」というなごよう わたし、わたしが「ハンドーム」になつちゃつてしまふ セーじ! ベンベン

「びゅうびゅうギリギリ、来しゆうかシ♥ んおシ、んつめーシ♥」

[卷之三] [三] [三] [三]

「ふえ……ひやあッ！ オチンポの栓、抜いたらだ、ダメえッ！ セーし、いつぱい詰まつたやつで

るの。  
お心  
抜いたら、抜いちやつたら……  
」

「あ、あ、ああ、んひい!! あひあツ、精子つづくシヅコウ♪」

「お尻の穴から噴水みたいにい……あへ、あへああ、見ないで!! 見られちゃうともひとつ気持ちよくなっちゃうの!? んひい♡ わたし変態だからお尻からせーし吹き出して♡ 見られぬの気持ちいいの♡♡♡」